

日本医療薬学会第 67 回公開シンポジウム開催報告書

第 67 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 中村克徳

平成 29 年 11 月 18 日（土）、沖縄県那覇市のゆいレール安里駅に隣接した「ほしぞら公民館」において、第 67 回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、共催：沖縄県病院薬剤師会、沖縄県薬剤師会）を開催した。本シンポジウムではテーマを「専門薬剤師のアウトカム（検証、業務への活用・繋げ方）—腎機能を中心に—」と設定した。近年の薬物療法は患者ごとに個別化され、使用される医薬品は腎機能等をもとに、きめ細かな投与設計を必要とするものが多く、専門的な知識が求められるようになってきている。そこで、本シンポジウムでは医薬品の専門家である薬剤師、特に専門・認定薬剤師の腎機能等を考慮した薬物療法の臨床現場での実践について、3 名のシンポジストと特別講演 2 演題から構成される企画を実施した。

まずシンポジウムでは、県内の病院施設で活躍している先生方から、特色ある取組について 3 題の発表があった。まず、豊見城中央病院 大城匡史 先生からは、「腎不全外来における腎臓病薬物療法認定薬剤師の関わり」と題して腎不全外来での認定薬剤師の役割として、患者腎機能を把握し腎排泄型薬剤や用量調節が必要な薬剤のチェックや、注意すべき OTC 薬・サプリメントなどの CKD 進展防止に関わる患者指導事例が紹介された。同じく豊見城中央病院 大城瑠奈 先生からは「腎臓病薬物療法認定薬剤師の活動～腎移植～」と題して、腎移植レシピエントを対象に認定薬剤師が介入し、腎移植前の免疫抑制剤の説明や併用薬と相互作用の確認、入院時のアドヒアランスや副作用の確認、そして退院後の薬剤師の継続介入事例、さらに腎移植自己管理手帳を作成し指導内容の統一、保険薬局との薬薬連携にも活用している事例が紹介された。最後の琉球大学医学部附属病院 潮平英郎 先生からは「感染制御領域における専門薬剤師の役割」と題して、感染領域での薬剤師の活動分野は主に ICT と Antimicrobial stewardship であり、認定・専門取得が求められていること、さらに専門薬剤師には質の高い薬物療法の実践とともに、他薬剤師への指導的役割や研究活動能力が求められることが腎機能低下患者の症例とともに発表された。

特別講演 1 では、熊本大学薬学部附属育薬フロンティアセンター・臨床薬理学分野 平田純生 先生に「腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師の立ち上げと業務への活用の期待」と題して講演していただいた。講演の中で平田先生は、腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師の立ち上げの経緯、そして主要な任務は①腎機能低下患者への薬物適正使用・副作用の未然防止、②腎機能悪化防止・合併症予防、③透析患者の合併症に対する最適な薬物治療、④薬剤性腎障害の防止など、非常に多岐にわたることを述べられた。特別講演 2 では、名古屋市立大学 大学院薬学研究科 木村和哲 先生に「専門薬剤師のアウトカムと展望」と題して講演していただいた。講演の中で木村先生は、全病棟に薬剤師が配

属され薬剤師の活動範囲が広がることで多くの認定・専門薬剤師制度が立ち上がったが、単に資格取得が目的化していないか、資格獲得でどんな成果が出たのか、患者に対するアウトカムをどのように評価するのがこれからの課題であること、さらに学会発表は素晴らしいことだが、病院薬剤師の重要性を医療現場で認めてもらうには、論文化することが重要であることを、ご自身の研究にも触れながら述べられた。

今回の第 67 回医療薬学公開シンポジウムは 67 名の参加があり、質疑応答においてもフロアから活発な意見、質問も出され、大変盛況のうちに閉会した。